

第10回教育委員会定例会議事要録

詳細—教育部庶務課 電話03-3981-1141

附属機関又は 会議体の名称	教育委員会定例会	
事務局（担当課）	教育部庶務課	
開催日時	平成27年10月14日 午後2時	
開催場所	教育委員会室	
出席者	委員	菅谷 眞（委員長）、嶋田 由美（委員長職務代理者）、千馬 英雄、渡邊 靖彦、三田 一則（教育長）
	その他	教育部長、庶務課長、学務課長、学校施設課長、指導課長、教育センター所長、統括指導主事2名
	事務局	庶務課庶務グループ係長、庶務課庶務グループ係主事
公開の可否	一部公開 傍聴人 0人	
非公開・一部公開の 場合は、その理由	第42号議案、第43号議案、報告事項第5号、報告事項第6号、報告事項第7号、報告事項第8号は人事案件のため非公開とする。	
会議次第	第42号議案 校長の職務代理について 第43号議案 臨時職員の任免について 報告事項第1号 能代市への教員派遣団について 報告事項第2号 平成27年度 第7回中学生「東京駅伝」大会について 報告事項第3号 巢鴨北中学校改築に伴う仮校舎（旧朝日中）の使用について 報告事項第4号 幼稚園教員職員の給与に関する条例施行規則の一部改正について 報告事項第5号 臨時職員の任免について 報告事項第6号 臨時職員の任免について 報告事項第7号 臨時職員の任免 報告事項第8号 臨時職員の任免	

菅谷委員長)

皆さん、こんにちは。

それでは、ただいまより第10回教育委員会定例会を始めたいと思います。

本日の署名委員は、渡邊委員、嶋田委員にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

ただいまご報告がありましたように、本日は傍聴申込者はおられないようですが、案件につきましては、人事案件を後にしまして報告事項第1号から始めさせていただきたいと思います。

(3) 報告事項第1号 能代市への教員派遣団について

<統括指導主事 資料説明>

菅谷委員長)

ありがとうございました。今のご説明につきまして何かご質問等ございますか。

三田教育長)

もう少し補足してもらいたいのですが、能代市への教員派遣団は4回目です。4回目ということは、4年にわたって積み上げてきて、どういう到達状況にあって、今年の特徴はどういうところにあるのか、また参加者は延べ何人になって、参加した人の感想はどうだったのか、以前に教育委員会で報告されていると思いますが、その辺の経緯や目的、それから、今年的位置付けというのはどういうところにあるのか、もう少し詳細に説明してもらいたい。

もう一つは、質問になりますが、これまで集合時に短時間ですが結団式をやっていたと思います。ただの旅行気分で行く人はいないと思いますが、研修ですからやはり目的がありますし、豊島区としては大きな時間と予算を割いて、授業改善と人材育成ということを兼ねて行っているのだから、結団式は必要だと思いますが、その辺はどうなっているのか。車中では大勢の公衆の面前を前にしてそういうことはできないし、解散式それもなしということになると、その辺が少し気になり、私の考えとしてはやはりやるべきだと思います。それから、もし参加者が時間に遅れてきたときには車中ではどうにもならないこともあるので、学校との連絡とか、集団行動をしていくときに必ずいざというときのことを考えておかないとなりませんが、その辺をどうして省略するのか、その2点についてお尋ねします。

統括指導主事)

まず、今回の派遣団でございますが、まず授業改善リーダー研修に若い教員が小学校から二人行っております。6月に授業研究、授業参観をさせていただいて、その反省を踏まえて自校で授業改善に取り組み、特に算数の教科を熱心に授業改善、授業づくりに取り組んでまいりまして、これまで以上に能代第五小学校の先生と細かくやりとりをさせていただきながら、今回11月の授業研究に臨むよう準備を進めているところでございます。

これまで派遣団につきましては、約50名が行っておりまして、それぞれ行った教員につきましては、例えばですが、学校の中心的リーダーの役割を担ったり、もしくは管理職候補者の選考を受けたり、それぞれの各学校で能代市から学んできたことの報告会をし、さらには区小研、区中研等の研究授業で活躍をしているところでございます。

今年度の派遣団の校長、各学校からの推薦メンバーを見ましても、若い先生がかなり多く含まれております。今後、主任教諭、主幹教諭として豊島区に残したい、豊島区で活躍してもらいたいという先生方をご推薦いただきました。視察派遣終了後には報告書をまとめ、区内小学校、中学校の先生方に共有化を図ってまいりたいと考えております。

また、各学校から推薦メンバーにつきましては、今後、研究員ですとか、管理職候補者としてご活躍いただける方を人選していただいておりますので、それぞれの皆さんの力を豊島区の中で発揮、普及していただきたいと考えております。

それから、2点目のご質問でございますが、車中にて打ち合わせをするということはずに、派遣団の皆さまには10月27日の火曜日に全員集まっておいただき、結団式を行わせていただき、派遣の目的、派遣終了後に報告としてどのように取りまとめていくのかというところにつきましても、きちんと共通理解を図った上で臨みたいと考えております。

また、集合及び解散時間につきましては、新幹線を使い、朝早い時間帯での集合、そして、解散は夕方6時近くになってしまいますので、この件につきましては事前にご了承いただきまして、大宮駅、上野駅それぞれで乗下車される方がありますので、車中で集合及び解散という形で対応させていただきたいと考えております。

菅谷委員長)

今のご説明で教育長よろしいですか。

三田教育長)

教育委員会の場合ですので、校長会で説明するのとは少し違って、私が言いたいのは、毎回派遣していますが、特に今回誰が授業をやるのか、この名簿の中の誰ですか。

統括指導主事)

4番の仰高小学校の主任教諭と5番の池袋本町小学校の主任教諭でございます。

三田教育長)

わかりました。私がここで一番お願いしたいのは、やはり豊島区の授業を変えたいということ。まだまだ教え込みで、中学校では研究も盛んに行われていない。これを何とかしないと、アクティブラーニングなんて言葉だけで終わってしまいます。能代市の先生は言語活動を中心としたアクティブラーニングをきちんと理解して実践していて、これを学ぶ価値はあって、私たちはこういうスタイルを豊島区で普及させたいと、そのことが結果として授業改善を通して子供たちの学力が上がってくるというふうに信じてやってきているわけです。

だから、先生方が能代市に行かれてみて、自分の学校あるいは自分の経験と比べて、能代市がいかにすごいポテンシャルを持っているのか、それを自分たちの学校に持ち帰って

どのように授業改善したらいいのか、あるいは学校や区小研にどういった提案をしていったらいいのかということが余り聞こえてきません。派遣が終わったらもうそれで終わりといった感じです。今年は学力テストの結果が良かった。そういうことからしても、教員派遣は続けていかないと、異動等により人も変わっていくわけですから。私の気持ちとして、最初の頃はそういう志というか、みんなさん熱気がありましたが、だんだん続けていくうちに、行って終わりという感じに見受けられます。終わって良かったではだめです。どんどん新たな提案をしてもらい、それを授業改善につなげて、はじめて良かったという評価ができるのです。

特に、中学校は体制の問題もあってなかなか行けてないということですが、やはりそれは私からすると努力が足りない。学校も教員も自分たちは良いとか、文化が違うからよいというような感覚がどこかあるのではないかと。やはり、これから小中が連携して一貫教育を進めていこうというときに、今年の位置付けは大きいと思いますが、依頼をする際に教員派遣の意義をきちんと位置付けておかないと、参加する側の教員には正しく伝わっていかない。校長先生方にもそういうことを自覚してもらわないと、ただ順番で行くわけでも何でもないので。私しからしてみると、もうこれは一本釣りで行ってもらったほうが良いと思っているぐらいです。是非豊島区の教育をがんがんに変えようという高い志を持って行ってほしいので、非常に細かなことだけでも、そういうこと一つ一つをきちんと位置付けてほしいということを申し上げたい。

今の発言で朝早いからできないというのであれば、結団式のところでそれをやれば良いし、あと、今回初めて教育委員の皆さん全員が行ってくださり、現地で情報交換や交流をしてくださるわけですから、そういう気持ちを参加される先生方にも伝えてほしいと思います。あらためて参加者に教員派遣の趣旨を徹底してほしいということで一言申し上げておきたいと思います。

菅谷委員長)

どうもありがとうございました。今の発言に対して、事務局いかがですか。

指導課長)

この派遣団については、事前の研修会を何回か予定おりました、今教育長からご指摘いただいたことは徹底していかなければならないと考えております。教員たちには授業のあり方について今後こうしていくというような目的意識を持って参加していただき、この派遣で得た成果を具体的に学校に戻ってどう発表するか、区にどうやって普及していくのかということの具体策を策定いたしまして、またご報告をさせていただこうと思いますので、よろしく願いいたします。

菅谷委員長)

千馬委員、何かございますか。

千馬委員)

それでは一言、私が今回の教育派遣団に参加させていただく気持ちを、お礼を含めてお

話しさせていただきたいと思います。

まず、今教育長からお話しがあったように、教員派遣が一定程度の成果を上げて定着しており、定着しつつも今後に向けて大切な時期に、教育委員を一緒に参加させていただくということに、本当にありがたいと受けとめております。

私は、今回行くに当たって大切にしたい考えが3点ございまして、一つは、秋田県、特に能代市の教育の実情をうわさでは聞いていますが、百聞は一見にしかずで、実際の実情を私なりにしっかりと把握させていただきたいというのがまず1点あります。

それから、2点目は派遣の制度です。今回も教員が何人か行かれますが、実際どういう成果をその場で上げるのか、やはりこの目で、先生方の反応を見てみたいです。私も教育関係の現場に長くいたので、参加される先生方がいただいた機会をどれだけ成果として自分自身に還元されていくのか、これはしっかり見ておきたいというふうに思います。

最後3点目は、おそらく学校現場だけではなく教育関係者の方々とも交流をしますが、能代市側の反応です。この制度に対してどういうふうに受けとめておられるのか、豊島区は豊島区なりに一定の成果を上げていますが、能代市側が成果というものをどういうふうに受け止めているのかというのも気になりますので、実際の生の声を聞けると良いし、それをまた豊島区の教育委員として今後に生かしていけたら良いと思います。

菅谷委員長)

どうもありがとうございます。渡邊委員、何かございますか。

渡邊委員)

私は今回の訪問を大変楽しみにしてしまっていて、須藤教育長先生が豊島区にいらしたときからずっと、何年越しでこの能代市との連携というものに立場が違っても関わらせていただいているので、本当に豊島区と違ったものを能代市が持っていて、それが本当に子どもたちに響いているという姿を区内の研究授業とかで見させていただいたので、本当にそれがなされている姿をもう一度確認して、それをさらに豊島区内の現場の先生に広めていければという感じを持っています。先程から中学校のお話が出ていましたが、能代市の中学生も豊島区の中学生とおそらく違うと思います。それは環境からして違うと思いますが、そういう中で中学校の授業というのも大変興味のあるところで、どちらかという派遣団も小学校の先生が中心となっていますけれども、やはり先ほど教育長が小中連携と話されたみたいに、来年度、池袋本町小中連携が完成して、いよいよ本腰を入れて小中の連携が実践されていく目の前の時期なので、そういうことをどれほど先生方の間で共通認識として持っていただけるのかというところが非常に興味のあるところです。

たぶん懇親会には市の教育関係者とかぐらいしか出てこられないと思いますが、個人的に関心があるのは、もしあちらにPTA連合会とかがあればそういう方とお話をして、能代の保護者の方たちが市に対してどういう教育を期待しているのか、また、どういう感覚を持っているのか、まして能代市は家庭教育を重視してやられているところなので、その辺の学校と保護者の連携がどんなものなのか話ができたらうれしいと思います。スケジュ

ールとかいろんな事情があつて難しいとは思いますが、向こうの職員の方とかからでもお話を伺えたらありがたいと思っていますので、能代市訪問を大変楽しみにしています。

菅谷委員長)

どうもありがとうございます。嶋田委員、何かございますか。

嶋田委員)

私も、ようやく何年か越しで一緒に行かせていただけることを本当に楽しみにしております。これまでの教育長と事務局の皆さんのご尽力に本当に感謝したいと思います。

今回、統括指導主事の今のお話で特に、若い世代の教員の方が多いということで、私自身も教員養成をやっている立場から、若い世代の方たちが与えられた機会をどういうふうにして自分のものにして育っていくかという過程を見たいと思っています。

そういう点で、選考過程について若干質問をさせていただきたいのですが、先般こういう書類が出てきたときに、私は少し学校が偏っている傾向があるのではないかとご指摘申し上げたのですが、今回は本当にいろいろな学校から先生たちが選ばれているように思えたので、先生方の中にも管理職にトライしていこうというお考えが広まってきたのではないかとうれしく思います。どういうふうに教員、あるいは管理職にこういう連絡がいつて、選考がどういうふうにしたのか、若い先生たちといろいろ車中でもお話ししたりすることもあるかと思しますので、事前にお話を伺っておきたいと思ひます。また、拝見したところ、教科が少し偏っているように思ひます。今まではいたかもしれませんが、今回は社会や理科の先生方がいらっしやらない。この間の学力調査でも理科の分野がまだまだというような結果も出ていたので、学校から推薦された先生を選んでいくとなると、それなりに教科の偏りを調整することは難しいのかもしれませんが、国語や算数が基本といへば基本かもしれませんが、その辺りを指導主事の先生方のご意見も伺えたらと思ひます。

菅谷委員長)

事務局、その辺りいかかですか。

統括指導主事)

教員派遣団につきまして、メンバーに偏りがないうちというところでは、校長先生方の周知をしてからのフォローにつきましては、特に今まで先生が能代市に一度も行っていない学校を中心にフォローをさせていただいたところがござひます。そして、校長先生方もその辺の意識をかなり高く持っていて、何とか出したいという思ひで推薦をさせていただいておひます。

また、今回の選考基準につきましても、実は今までの応募の中で一番多くの希望者が上がってきまして、一つの学校で3名もの先生を推薦して下さった学校もありました。その学校はこれまでも毎年のように推薦をいただき、派遣をしている学校でござひます。そういった積極的な学校もありましたが、今回は校内から能代市にまだ一人も出していないという学校から推薦をいただいた先生に行つていただくというようなところがござひます。

ですから、教科につきましては、そういった事情があるものですから、教科というより

も、むしろ各学校でこの人に行ってもらいたいという管理職の強い願い、もしくは周りの先生方からの人望が厚い人、そういった先生をご推薦いただいているので、そういった内容の選考結果でございます。

菅谷委員長)

教育長どうぞ。

三田教育長)

教育はやはり人なので、私は画一的な投げかけ方とか順番で何か決めていくとか、そういう前近代的なやり方は止めてもらいたい。いつも旬な必要人をリサーチして派遣をするとか、それを教育委員会主導でやってもらいたい。よくある例では、校長会でよろしく、区小研でよろしくと丸投げで今までやってきたわけです。だから校長会が良くならない、教員がしっかりしない、あなた任せで誰も責任を取らない。行っても行かなくても、あるいは行って持ち帰ってくる成果について誰がどういうふうに波及させていくのか。やはり税金を使って大勢の先生方を派遣するわけですから、その結果が子どもたちや学校にどれだけ還元されているのかという、ある意味、教育委員会のコスト意識や教育に対する姿勢が厳しく問われています。

ですから、そういうことをしっかりと受け止めてやってもらいたい。そのためにはこれまで結団式のときに、どういう問題意識を持って行ってもらおうのかというレポートを取りましたけども、そういうレベルのものは当然やるべきであるし、今年あたりは例えば取材の仕方、どういう取材をするのか、授業を見るときに、例えば持っていったカメラでどういうところを撮ってくるのか、その映像を他の人たちと共有するなり共同で分析するような場を作るのかどうなのか。そして派遣団の一員として提案したいことがあったら豊島区全体あるいは自分の学校でどんどん提案してもらいたい。そういうふうにして一人が行ったことでもう100人分ぐらいの影響が出てくるような工夫をしてもらいたい。それから、子供たちのいろいろな掲示も素晴らしいし、授業風景も素晴らしい。場合によっては映像と音声のビデオ記録を撮って、教師と子どもの発言分析をしてもらって、授業分析の基本というのは昔から発言分析にあります。つまり、その問いに対する答えを導くのにどんなふうに子どもたちとやりとりしているのか、アクティブラーニングのもとになっている言語活動はどういうふうに組み立てられているのか、教師の発問によって教材がどんなふうにこじあけながら展開しているのか、やはりそういうことを見ていかないといけない。それから、実際に、向こうでやってもらう授業というのは算数だけですよね。それ以外の理科や社会でアクティブラーニングというのをどうしているのか。国語や算数は今まで逆にさんざん見てきていますよね。

だから、先ほど嶋田委員からあった教科の選定というのも、もし、教育委員会主導でやったらそういうようなことももっとはつきりできるのではないかというふうに思います。区小研に社会科部だって理科部だってありますよね。学力の問題で豊島区はそこに一番の課題を抱えているのに、そこに切り込まないというのは、私は教育委員会としてどうなの

かというふうに思ってしまいます。結果として、そういう人がいなかったからこうなったのかもしれないけど。だけど、目的意識を持ってやるからには、私たちが本当に深刻に抱えている課題を掲げて現地に行って、汗だくになって向こうから学んでくる、そういう結果がすごい影響力を与えることになるので、人の感動はそういうことをしないと、「ああ行ってきたんだ、あなただけ良い思いをして良かったね」で終わってしまう。もうそういう研修だったら来年からしなくていいんじゃないですか。

今年の国や区の学力調査の結果が良くて最高の到達点に達しましたが、来年こうなるとは限らない。人も異動するし学校の環境も年々変わっていくので、そこは緩みなくきちんとやってもらいたい。基本的な姿勢は絶対忘れないでやってもらいたいと思いますので、よろしくをお願いします。

指導課長)

1点だけ補足させていただきますと、この人選につきましては私から指示をいたしました。5月、6月の段階で校長から人事のヒアリングを当初行いまして、本校で次リーダーになる、特に学習指導の面でリーダーになるという先生方がここに並んでおりますので、そういった点では教育長が危惧されていたような、学校に募集をかけて学校の都合で上げてきたメンバーということではありませんので、そういった面では私は保証のできる教員が集まってきたと思います。

あと、教科につきましても、道徳でもA部会、B部会ということで、教科についてもそれぞれ専門性を持っていますので、そういったことの普及に努めていきたいというふうに思います。

三田教育長)

私も授業改善ヒアリングをやっていて、この能代市の派遣だけで解決するつもりはありませんが、やはり区小研、区中研の先生方が理科、社会が連続的によくないということについてどう思っているのか、どうしなきゃいけないと思っているのか、それを聞きたいです。

もう2学期、夏休み中、私たちが時間をかけて授業改善プランについて検討してきましたが、その後、どういうふう実践の筋道を立てて改善しようとしているのか。そこに焦点が行かないと来年もまた結果は同じです。4月に学力調査をやったらやはり理科はだめです、社会だめですという話になって、何年間同じことをやっていればいいんだという話になりますが、区小研から切り込んだ新しい提案は出てもないし、私も社会科をずっとやってきたので何校か頼まれて学校に指導に行きますが、実際に教育長が教科の直接指導をしているなんていうのはないと思います。でも、頼まれて行ってみるとびっくりすることはいっぱいあります。地元素晴らしい教材がたくさんあるのに、先生がきちんと使えていないし地元のことを全然知らない。よくそれで現場の指導ができるなど、ある意味、本音で思います。子どもたちは地元で暮らしているにも関わらず、先生は地元を知らない。理科だってきちんと理科室での実験が十分できていなかったり、あるいは準備が不十分で

あたりとか。理科の研究をしている学校はあるけど、うちは算数をやっているからよい、うちでは国語をやっているからよいではなくて、小学校でいうと先生方は全教科を教えているわけだし、まして中学校でいったら、理科や社会の教科担任は何をやっているのかと思います。親だって本音はそう思っているに違いない。うちは社会科がだめと言われて、昔から社会科に苦手意識を持っている先生が多い。先生が苦手だから子どもが伸びないのです。

だから、そのためには先生方がどうやって社会科や理科の授業を楽しくする方法を見つけて授業を改善するのか。これはもはや子供の問題じゃない、教師の問題です。それが中学校から上がってこない、そこが私は不思議でならない。万が一、学校で葛藤していないのではない、葛藤しているのだとしたら、もっとそれを伝えてほしいのです。

こういうものというのは一つの集大成として形が見えてくるので、そういう意味で少し厳しいことを言っているのですが、私の教育長としての任期は4年間と決まっています、議会でお約束して教育ビジョンを作ってやってきているので、それが変わらないということは変えていないということなのか、それとも指導力がないということなのかということにもなるので、やっぱり教育委員会と学校が一緒になって今の豊島区の持っている課題について正対して、しっかりと頭を悩ませてほしいと思います。

統括指導主事)

今の教育長のお話や委員のお話を受けまして、例えば、小学校の理科につきましては、2年前派遣団で行きました南池袋小学校の先生が理科の指導教諭になりまして、今区内の小学校の先生方を対象とした理科の授業研究を行います、そのような形で何とか、特に若手の先生の指導力のアップにつなげられるように今頑張らせていただいています。

また、南池袋小学校の中村校長先生からも、理科の実験について基本的な部分で抜けている部分が非常に多いので、今後指導教諭の先生とともに区内にそれが普及できるように頑張っていきたいということで、非常にご尽力をいただいております。

また、区小研の生活科、総合的な学習の時間の部会でも、問題解決的な学習というものをかなり熱心に進められるようになっておりまして、若手の教員を中心に授業改善を図っているところがございます。社会科はまだそういった機運がなく、指導力もまだまだ上がってきていないのではないかと感じられます。ただ、そうは言いますが、ふるさと学習プログラムの一つとして地域資源、地域素材というものを何とかして学習素材に取り入れていこうということで、今、豊島の教育として、「はばたけ豊島」の副読本作りに昨年度から熱心に取り組んでおりまして、今まで使っていた副読本よりもさらに地域の資源、素材、人材というものを部厚くした資料作りに励んでいただいております。そういったところでもまた授業改善を図れるのではないかと考えております。今後そういったところで頑張っているということをご報告できるように努めてまいりたいと思います。

菅谷委員長)

どうもありがとうございました。能代市への教員派遣団ということで、今までの経緯で

すとか、そこでの成果をどう評価するかということが課題であるということで、いろいろと委員の皆さまからそれについてご意見をいただきまして非常に参考になったと思います。

教育長のお話も非常にレベルが高いお話で、先生方も随分頑張っていらっしゃると思いますが、さらに豊島区の教育をよくしようという、そういう思いが今の教育長の話でよく伝わったと思います。

私自身は教育と直接関係なく、ある意味素人ですが、今回の派遣でどんなところが気になるかという、私はどうして能代市がこんなに頑張ったのかという、なぜ頑張ったのかということが少し気になって、この間のお話では、とにかく最初のころ全国でも最下位で何とかしようということがスタートになったということだそうですが。この間の能代市長さんのお話を伺って私は非常に感銘を受け、皆さんも同様に感銘を受けられたと思いますが、ああいう市長さんがいらっしゃるとその地域が非常に活性化するのではないかという、そんな思いがして、そういうこともあって今度ぜひゆくり伺ってみたいと思いました。前から能代市には一度行ってみたいと思っていましたが、一番のきっかけというのはこの間の市長さんのお話でありました。

今回は全員の委員がいらっしゃるといので、私も非常に心強く思っています。何とか今回の派遣の成果が上がるように頑張ってきたと思っています。どうもありがとうございました。

三田教育長)

今、私が申し上げたのは、その教科ごとの課題というものについて、そこに携わっている教員が同じ方向を向いてきちんと問題意識を持ってもらいたいということで、これは能代市への教員派遣団のみならず、教科全体において学力向上と授業改善という大きな課題についてしっかりと目的意識を持って行動してもらいたいということで、是非心に受け止めて今後に活かしてもらいたいと思います。

もう一つ、豊島区と能代市のようにこうやって協定を結んで持続的かつ系統的にやっているというところは他にない。自治体間でのこういう連携というのは多分全国で初めてスタートして、今でもそんなにないと思っています。では能代市は何で豊島区と言ったら、私たちが現地に行っているろんなことがニュースで取り上げられたりすると、東京にいる能代市出身の人たちがそれを聞いて、能代市はそんなに頑張って豊島区といろいろとやっているということで、すごく励まされたというのが最初の受け止め方であったそうです。

また、私たちが一番初めに能代市を訪れたときに、須藤教育長にお会いし、是非、この人に豊島区の先生方の前で話をしてもらいたいと思い、冬の寒い時期に南池袋小の体育館で講演をしてもらいました。400人ぐらい参加者が会場いっぱい集まって、冬の寒い時期なのに微動だせず聞き入っていました。自分の話を熱心に聞いてくれたというのがすごい感動を呼びました。やはりお互いに行ったり来たりしてみると、その違いがあったり、それぞれの良さがあるって、お互いに学んでいるということが、私たちがこれまで持続してきた大きな原動力となっています。

私たち現地に行くと、いつも教育委員全員が対応してくれます。それから、本区で言うと、子ども文教委員の位置にある市議会議員さんが見えています。それから、街の教育行政に関係する人たちもほとんど来られているのではないかと。それと、向こうからこちらに派遣で来てくれた先生方も皆さんや校長先生方もほとんどの方が参加しているということで、現地でいつも歓迎していただいているので、そういうことを是非とも受け止めて行っていただければありがたいと思います。

それから、私が絶対忘れてはいけないと思っているのが、この連携事業の橋渡し役をしてくれた高野区長のお嬢様と、JA白神農協の組合長さんだった袴田さんです。袴田さんは昨年お亡くなりになりましたけども、本当に力を尽くしてくれて、この教育連携の後に防災協定まで全部橋渡しの役を果たしてくれました。そして、3.11の大震災のときに東京都でも最初に水で困ったときに、「これを使ってください」と白神の名水をたくさん送ってくれたのが白神農協さんです。そういうふうなつながりがきっかけで、こういう二つの連携に発展していたということで、今回、能代市長さんが袴田さんの奥さんをお呼びすると言ってくさっているのです。是非感謝とお礼を申し伝える場にもできたら良いと思います。派遣団で行った先生方にもそういう原点を忘れないということをぜひお伝えしていきたいと思っています。

以上、そういう経緯があるということでご理解いただければと思います。

菅谷委員長)

どうもありがとうございました。この話をずっと続けていくといくら時間があっても足りませんので、この続きは車内でということで、次の議題に入りたいと思います。

(4) 報告事項第2号 平成27年度第7回中学生「東京駅伝」大会について

<統括指導主事 資料説明>

菅谷委員長)

どうもありがとうございました。去年は少し天候が悪い中、私も拝見させていただきましたが、豊島区の選手は、最初頑張っていました、最後の競技場のところでかなり抜かれてしまったので、もう少し頑張ると良いという話を渡邊委員とした覚えがありますが、とにかくオール豊島でいろんな学校が参加してくれて非常に良いと思いますが、これについて何かご意見ご提案がございますか。

三田教育長)

いつも参加して感じるのは、豊島はギャラリーが余りにも寂しいと感じていて、オール豊島でやるのであれば本当はもっといろんなギャラリーがいてもおかしくない。生徒も学校代表や陸上部とか、子供たちがもう少し自分たちの仲間の代表が走っているときに応援してよいのではないかと。応援用のバスだって出しているのに。なんだったら引率者用と子ども用のバス2台出してもいいと思いますが、バスが1台でがら空き。よその地区は実に応援がすごい。第1回目のときに豊島区は6位に入ってすごい、文武両道と思いましたが、

だんだん順位が下がって行って、その年のメンバー構成にもよるのでしょうが物足りない。足立区なんかはいつも良い成績を上げていてすごい。いつも1位か2位を争っています。

それから、10位内に入っている地区はやはり広いグラウンドを持っていてかなわないところがありますが、そういうことを言ったらおしまい、この間、城西高校の生徒の世界陸上出場の壮行会に行ってきましたが、城西高校は豊島区にありますから、土地の狭い環境の中で記録が出せるなという話を皆さんされていました。どうしてこんなすばらしい記録が出せたのか聞いたところ、陸上の練習は豊島区の三芳グラウンドに行ってやっているそうです。普段は学校で筋トレとかスタート練習とかをしているらしいです。ただ違うのは、うらやましいと思ったのは4人監督がいることです。80人の部員で4人います。4人のうち3人が陸上のオリンピックのアスリート経験者です。ちょっとした違いではありますが、狭いところでもトレーニングとかで持久力はつきますし、うちは陸上だけじゃなくてサッカーでも子供が代表になったりしています。

だから、もう少しこの駅伝でも代表選びとか、生徒・保護者の応援参加も含めて機運というか、盛り上げていく体制づくりが必要なのではないかと思いました。ぜひ今年度は今からそういった体制づくりを中体連と一緒に考えて、子供たちに背を押してあげていただければと思います。

菅谷委員長)

どうもありがとうございました。他の委員、何かありますか。

千馬委員)

私も昨年度参加させてもらい感想ですが、やはり応援が少し寂しかったという気がしました。結果はともかく、こういうところに子どもたちが一生懸命参加しているので、第7回は何とかして盛り上げていただいて、私も参加をして一緒に応援したいと思っています。ぜひ、大会に参加することによって生徒が何か良い効果を上げていただけたらという思いでございます。

菅谷委員長)

渡邊委員、何かございますか。

渡邊委員)

昨年度も拝見して感じたのは、生徒たちは本当に勝つ気があるのか。もちろん優勝することだけに意味があるわけではないのですが、出ている生徒を見てみると、本気でやりに来ているのかというような印象を受けました。

先ほど教育長がお話しされたみたいに、一人しか学校から出てこなかったら頑張るにも頑張りにくいし、応援でも自分の学校の生徒が走っていたら応援しようと思います。私は、自分の学校の生徒が走っていたら応援しようという雰囲気づくりを、学校の体育の先生にももっともっと強く言ってもいいのではないかと思います。どちらかという体育の先生は、こういう大会があるとの情報が来ると、じゃあ選手を選ばないといけないという程度のレベルではないのかというのが率直な印象です。だから、それをもう一つ乗り越えて、

みんなで一致団結して全力を出し切って頑張ろうよというような、そういう形で子供たちの心を先生方が引っ張っていってくれるようなご指導をいただくと、結果はどうであれ見ていて本当に迫力のある大会になるのではないかと思います。

上位の地区の学校というのは、生徒、選手だけでなくギャラリー含めてみんなが一緒になって頑張っており、実際のその姿を目の当たりに見ているので、その辺が少し豊島区には欠けているのではないかという気がしています。できることであるならば、せっかく参加するのですから、みんなで頑張ったねとほめてあげることによって、子どもたちの頑張った力を各学校にも持ち帰ってもらえるのではないかと思います。その辺はいかがなものでしょうか。

統括指導主事)

ご指摘のとおりでございまして、昨年度少し残念な結果であったというのが率直なところで、担当の巣鴨北中の平本校長先生にも、別に順位を上げることが目的ではないとはいえ、子供たちからすると一所懸命練習すればするほど良い成績を取りたくなるのが心情なので、ぜひ次年度は良い成績を収められるように、しっかり練習のご指導をお願いしたいという話をしたところ、校長先生も同じ認識でいらっしゃいました。

また、応援についても、保護者、それから生徒、教員含めて、幅広く応援していただけるように今から働きかけをしまして、バス複数台で連ねて応援できるような体制をとっていきたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

菅谷委員長)

いろいろ課題があろうかと思いますが、また今年度の大会もぜひ頑張ってもらいたいと思います。それでは、次の議題に移ります。

(5) 報告事項第3号 巣鴨北中学校改築に伴う仮校舎(旧朝日中)の使用について

<学校施設課長 資料説明>

菅谷委員長)

ありがとうございました。ただいまいろいろとご説明いただきましたが、何かご意見、ご質問はございますか。

三田教育長)

仮校舎の説明会があるということなので、それに標準を合わせて教育委員会でも議論しなければいけないと思いますが、まず1点目は、仮校舎になって給食が毎日出るのか、それとも弁当になるのか、親は必ずその話をするので、まず最初に弁当はやりません、給食でやりますと言ってもらえないかと思います。最初から給食をやりますと言うと、それが当たり前だと思われても困りますが、ただ、ここに書いてあるようなアレルギーとかいろいろな対応があり、そのことを心配する親もいるので、それは大丈夫だという安全性を担保してあげること。例えば、これからどこの業者と契約するかわかりませんが、センター方式で給食の配送をしているところはたくさんあるので、そういう地域の経験をよく聞いて

ておいて、安全性を保って実績のあるところを選ぶので大丈夫という、そういうきちんとしたデータを事前に整理しておいた方がよい説明が出来ると思います。

それから、プールと校庭の利用については、これは代替措置なので、体育の水泳の授業が年間で何時間、それ以外の校庭での体育の授業が年間で何時間ぐらいというように、具体的な数値を上げて、どこどこに替えることで何日間、何時間は大丈夫、確保できますというような、きちんとした数字を示して説明できるようにしてほしいと思います。学校のことでも時数の計算をよく相談に乗ってもらってやってもらいたい。その際、移動に要する時間も話に出るのではないかと。部活動も同様です。そのあたりをどのように学校と詰めているのか、その点についてお考えがあれば伺いたいと思います。

学校施設課長)

現在、巢鴨北中学校の校長先生といろいろと話をしている段階で、まだ完全には詰め切れていないところもございますので、教育長からのご指摘も含めて早急に校長先生と調整をし、保護者会でご説明できるように詰めてまいりますと思います。

嶋田委員)

保護者会があるということなので、おそらくこういう質問が出るのではないかと思います。部活動で、例えば野球部の荒川野球場の使用だと土曜日の午後になると思います。現在も土曜日の午後に活動を行っているのかということと、もう一つはその次のページの旧朝日中学校から総合体育場までの距離ですが、2.2キロあり、自転車はすごくいろんな危険があって難しく、都電に乗せたほうが安全だということでも都電を使うというお考えかと思いますが、その際に保護者からは都電の料金はどうなるのか、当然出るのではないかと思います。その辺のお考えをお聞かせいただければと思います。

学校施設課長)

現在の巢鴨北中学校の土曜日の校庭の使い方につきましては、土曜日は野球部とサッカー一部とテニス部が活動しており、今週は野球部が全面使います、来週はサッカー一部が全面使います、再来週はテニス部が全面使いますというような、使い分けをしております。なので、嶋田委員のご質問にございます野球部につきましては、土曜日の活動は行っていますが、毎週行っているということではありません。

嶋田委員)

すみません、午後の12時から16時に行っているかどうかという質問ですが。

学校施設課長)

行ってございます。

それから、都電の運賃の件ですが、それについては実はPTAからもご指摘がありまして、PTA会長ともお話しをしている最中です。どうするかにつきましては平成29年度の話ですので、予算化するとしたら来年の今ごろとなります。その点につきましてもよくPTAや学校と詰めていきたいと思います。

菅谷委員長)

他に何かご質問。どうぞ。

渡邊委員)

気になる点がいくつかありますので質問いたしますが、基本的に保護者に対する説明というのはかなり丁寧にしないと、今の保護者からご理解を得るのは難しいと思います。

まず1点目から、アレルギー対応に対する給食の配膳の問題ですが、おそらく保護者に対する説明でもここに記載されているような安全確保についてのお話をされると思いますが、もっと具体的に説明しないといけないと思います。例えばアレルギー対応の食事を運ぶとなると、まず運ぶ段階から、旧真和中を出たところからどう区別して行って、担当者をどういうふうに明確にしておくのか。いや分けますと言っても、例えばトラックに搬入する段階でどうなっているのかとか、また搬出する段階ではどうなっているのかとか、実際に当該生徒のところまで届くまでの間にどう対応しているのか。例えば学校側は必ず栄養士が立ち会います、業者側はきちんとした文書とかチェックリストとかにより対応しますとか、具体的にはこういう人を担当者として付けますというようなことをしておかないと、なかなか安心してもらえない部分もあるかもしれないし、やはり一番怖いのは万が一の事故です。万が一の事故が起きないためにはそれぐらい厳重にチェックしておく必要があります、かなりのシミュレーションが大事だと思います。これは給食に限らず全てにおいて。ですから、そのシミュレーションを相当なレベルで詰めて、具体性を持って考えたほうがいいです。やはり食物アレルギーは命にかかわることなのでごく気になる点です。

それから、プールから校庭の利用等について、この地図を拝見すると、私はいつもこの17号を通過して事務所まで行っていますが、実際にここの都電の線路を渡ります。ここの信号は変わるまでが非常に長いです。ですから、信号を守らない人が結構いる、車も自転車もたくさんいる中で生徒のスムーズな移動ができるのか。また、安全な移動ができるのかどうかという場所で、中学生だから道路をきちんと歩きなさいと言って歩けるものなのかどうか、これは本当に親として恥ずかしい話ですが、今の小学生や中学生はそんなに道路をきちんと歩けないと思います。

しかも、授業中に移動するという点に関しては、区民の皆さんもかなり見る話だと思います。そうすると、その横断歩道のところに生徒たちがたくさん溜まって一般区民の方に迷惑をかけるという可能性もなくはない。では移動の段階で何人の先生が引率するのですかと、それこそ学校の先生に居合わせれば、もう中学生だから道路ぐらいきちんと歩きますというような話になるかもしれませんが、果たしてそうなのかどうかというところは、やはり検証する必要があるのではないかと感じています。この17号の歩道自体には歩行者はそんなにいませんが、先ほどお話ししたみたいに信号を渡るところでは信号が変わるまでの時間もかかるし、まして総合体育場に行くにあたっては相当距離があります。わりと裏道を選んではいるようですが、やはり同じような問題があるのではないかと。

それから、特にプールに関して、移動の際に濡れた体で帰ることになると思います。男子はよしとしても、女子だと髪が濡れていると人前では気になるかもしれないし、その辺

の説明についてももう少し具体的に考えたほうがいいのではないかと思います。

それと、例えば野球部が施設を利用するといった場合、部活ですから制服で行って向こうで着替えるということは多分想定していないと思います。あらかじめ着て行ってということになると、まち中でもかなり見かけるのが、野球部というのは必ずバットとかを持って歩きます。万が一自転車で行くとなると、まち中を自転車でヘルメットをかぶってバットを持ってものすごい勢いで飛ばしていくというのは、区民の皆さんにとってはかなり迷惑な話なので、そういうことが絶対起きないように指導するとか、そういうふうに具体性を持って言っていないといけない。区としても学校を建て替えることに伴う不利益をなくするための代替措置としてやっていくことなので、当然として責任を持ってやっていくべきです。先ほど、都電を使うとしたらお金がかかるという話でしたが、やはり税金を使ってもという部分もありますので、よほど丁寧な説明をしていかないと保護者や生徒に徹底できない部分があるのではないかとこのように考えますが、その辺の徹底については学校側とどの程度お話をされているのでしょうか。

学校施設課長)

ご指摘ありがとうございます。まず、アレルギー食のことでございますが、旧真和中でアレルギー対応食を作る段階から、どのような表示になっていて、どういう方がどのスペースで対応して、そしてそれを車に運ぶときにはどういう形で、また、それを到着した後にどう受け渡すのかということ、具体的に時系列に確認をいたしまして、保護者説明会ではご説明させていただきたいというふうに考えます。

教育部長)

巣鴨北中の改築については、29年4月に仮校舎に移るわけなので、対象となる子供たちは現在の巣鴨北中の1年生、それから近隣の6年生という形になります。あと2年間あるということで、今ご指摘いただいた具体的な部分についても学校長とお話をしながら、どの辺までの話をしていくのかということを中心に決めて、保護者に丁寧に対応していきたいと思います。

菅谷委員長)

先ほどからのお話の中で、やはり移動の部分が少し大変だということに思いますが、他に何かございますか。

三田教育長)

教育課程のことについて、これは完全実施できないと大変なので、授業時数の確保についてはどんなことをしても、お金を出してでもきちんとやってもらいたいです。

それから部活について、これは限りなく不満が出てくると思います。だから、できることとできないことははっきりさせて、安全対策上でも約束できないものはできないので、それは我慢してもらおうということやっていかないといけないと思います。

それから、何もかも全部教育委員会に考えなさいというそういう姿勢ではなくて、せっかく建替えを考える会を作ってやっているわけですから、一緒になって考えてもらおうとい

う方法もあります。それから部活にしても、中学校が8校あるわけで、例えば都電等を使って中学校同士で合同練習をやるとか、上手く試合にぶつけていけばそういう練習の仕方でもできると思います。もう少しオール豊島で考えてみてはいかがでしょうか。それから、保護者の中にもスポーツをいろいろとやっている人たちもいるので、そういう方々のお力も借りて2年間仮校舎でなんとかやりくりしていくというようなことで、部活と教育課程の内容についてはしっかりと区別をしながら、サービス全部を教育委員会が「はい、いたします」というそういう考え方はもちろん大事ですが、必ずしもそうはいかないので、みんなで工夫してやりくりしながら頑張っていくというような形にぜひ持ってってもらいたいと思います。そのためにも学校はお客さんではなくて、いろいろ知恵を絞って考えてもらいたいと思います。

日にちが余りないので、少なくとも方向性だけでも保護者にきちんと説明をして安心してもらい、心配なく工事に入っていけるようにしてもらいたい。一番の懸念材料は、他の中学校に比べて何倍も経費がかかってしまうケースです。敷地の道路づけも商店街通り側にしかありません。そういう中で工事はずごく苦勞するし、しかも東京ガスの敷地を買収しなければならないという課題も持ち合わせているので、いくつもの課題を抱えながら学校改築をすることになります。なかなか大変かもしれないが、教育委員会は並々ならぬ決意でこれをやる、ぜひ皆さんに喜んでもらえるようなそういう改築にしましょうということで、私どもの姿勢、心意気というものを、ぜひ住民に伝えていただけたらありがたいと思います。最初が肝心なので、よろしく願いいたします。

菅谷委員長)

例えばこういう改築工事は概ね3年間ぐらいかかりますが、巢鴨北中学校を志望する人の数が減るとか、何かそういった影響はございますか。

学務課長)

本区は隣接校選択制を実施しており、従来の指定校に加えて隣接している学校を選ぶことができます。小中学校に入学するときに制度をご利用になられるご家庭がございしますが、巢鴨北中学校の場合は、この3年間で本来であれば巢鴨北中に通う生徒が隣接している学校を希望する数が増えてきております。隣接校に今年度は43名、前年度も55名くらいおりまして、隣接校を選択する子供の数が増えてきている状況にございます。おそらく改築が影響しているものと思われま。

菅谷委員長)

いろいろと課題はございますが、地域の方と十分話し合い進めていくことが非常に重要だと思います。今後いろいろと進めていく中でまたお話があらうかと思っておりますけども、他にご意見がなければ、この案件についてはこれで終了したいと思います。

<庶務課長 資料説明>

菅谷委員長)

ありがとうございます。何かご質問等ございますか。

三田教育長)

実務的なことで恐縮ですが、今回の規則改正は実務手続を変更しますということだけの提案なのです。もっと言うと、教育公務員の話ですが、再任用制度が出来て、65歳まで年金支給が基礎年金部分しか出ないということで、年金生活ができなくなってしまい、さらに水準の低い厚生年金に一本化されることによって、もう公務員は退職したら年金で細々と暮らしていくという時代はもうここで終わりということかと思えます。

ですから、できるだけ健康で働いて自分でお金を稼ぐと。何としても少子高齢化社会を乗り切っていくといけない。私の年代は特に団塊の世代でございますので、これが一斉に退職すると日本の景気も経済も年金制度も全て世界的なレベルで厳しい状況になってしまうのではないかと。豊島区では消滅可能性都市といわれて今発奮していますし、それから荒廃したシャッター街の話などいろいろと出ていますが、もう日本の人口がそういう構造になっているので、経済の実態に合わせた社会保障制度のあり方そのものが転換点に来ているということで考えていかないと、私たちはずっと右肩上がりの社会に慣れてきたということもありますが、そういう意味で大きな節目だと思ってこの問題も考えておりました。ぜひそのような理解をしながら、自分の生き方、あり方を考えていただければと思います。

菅谷委員長)

よく理解できました。他にご意見ございますか。なければこの案件は終わりにしたいと思います。

それでは、ここから人事案件に入りたいと思います。

(1) 第42号議案 校長の職務代理について

<指導課長 資料説明>

人事案件のため非公開

(委員全員異議なし 第42号議案了承)

(2) 第43号議案 臨時職員の任免について

<指導課長 資料説明>

人事案件のため非公開

(委員全員異議なし 第43号議案了承)

(7) 報告事項第5号 臨時職員の任免について

<指導課長 資料説明>

人事案件のため非公開

(8) 報告事項第6号 臨時職員の任免について

<指導課長 資料説明>

人事案件のため非公開

(9) 報告事項第7号 臨時職員の任免

<教育センター所長 資料説明>

人事案件のため非公開

(10) 報告事項第8号 臨時職員の任免

<庶務課長 資料説明>

人事案件のため非公開

(午後4時00分 閉会)